

千代田まつり

連帯と活力にみちた郷土づくり

10月31日・11月1日

開発センター
町民クラント
町民体育館

●千代田まつり実行委員会

第10回 文化祭

テーマ

原点

□き時代からのメッセージ

10月24日～11月3日・7日・15日

中央公民館
開発センター

●千代田町文化祭実行委員会



月光菩薩

(古保利薬師)

嵯峨天皇の弘仁年間（今から約1,100年前）弘法大師によって開基されたとされる古保利薬師（広島県山県郡千代田町古保利）に伝わる代表的な平安初期の弘仁貞観彫刻で、日光菩薩とともに本尊薬師如来の脇侍仏。

この月光菩薩をはじめ本尊薬師如来等12体の仏像は、一木造りの技法で、当時の特徴である重厚尊厳さを今に伝えている。これらの仏像は、国の重要文化財の指定を受け、千代田町を代表する文化財である。

千代田町文化祭 10周年記念

ポスターカレンダー

私達の町千代田で、昭和46年に青年が中心となって文化祭を始めて、今年で10回目をむかえることになりました。この10年間さまざまな足跡を残してきた諸先輩に敬意を表し、これからより有意義な文化祭の歴史が始まることを記念して、ここにポスターカレンダーを製作することになりました。

皆様と共に、千代田の文化の一端を味わうことができれば幸いです。

千代田まつり・文化祭

ごあんない

開発センター



商工センター



体育館



中央公民館



● 日程と内容

10月31日～11月1日
農産物加工実演会

10月31日午後5時開演
町内神楽発表会

11月1日午前9時
当日祭
民踊ほか劇・武一
むなくとからの叫び

11月3日午前10時

映画会 (いまできること)
(日本昔ばなし)

11月15日午後6時

コンサート
土田悦二, 掛江清一
洒落 ほっとすたっふ
キャメルキャラメル
ウメ&ジュリエット



農業再編対策を考える展 10月24日～11月3日
示 各種作品展示

省エネ展示

児童図画・小中学生書道
展

11月7日(土)午後7時

ドライバー適性診断

講演会

駿光とのであい

町内企業製品展示

町民グラウンド

10月31日～11月1日午前10時～午後5時

■バザー■わら・竹製品展示即売会■野菜品
評即売会■青空市場■農産物加工品即売■く
だもの即売会■ミニ牧場■牛乳のみ放だい
■乳製品・牛肉即売■農機具展示会■町内産
主木展示会■酒試飲■焼肉■自動車展示会
■千代田音頭■米鑑定競技■せともの市■和

牛展示■コシヒカリ試食会■ハト麦茶試
飲会■農業用アイデア小道具展示■もち
まき(午後4時より)

10月31日午後2時 カラオケ大会

10月31日午前10時～午後4時

ミニSL乗車会

千代田まつり あ い さ つ

千代田まつり実行委員会会長

千代田町長 井 上 一 位

日頃より、町政の推進につきましては格別のご理解、ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

昨年は、異常気象による農産物の被害にもかかわらず関係各位の格段のご配慮によりまして、米まつりが賑賑しく開催できましたことを偏に感謝申し上げる次第であります。

本年はこの米まつりを発展させて町民がこぞって本町産業の振興とその発展のため、またふるくから培われてきた伝統・文化を継承し、「連滞と活力にみちた郷土づくり」をテーマに互いに労働と生産の喜びを分かち合うと共に良質千代田米の生産および消費拡大を推進することを目的に「千代田まつり」として28団体参加のもとに開催することになりました。誠に意義深く感謝に堪えない次第であります。

「天高く馬肥ゆる秋」と申しますが、この秋日に自然の恵みに感謝し創造の喜びを共に受けとめ、町民の連帯を深め活力を醸成することを念じて止みません。

最後に、この千代田まつりへ参画された関係者各位のご協力に対し深甚なる敬意を表して挨拶と致します。

千代田まつり実行委員会副会長

千代田町農業協同組合長

池 神 吉 磨

「米まつり」から飛躍してこれを更に一層発展され「千代田まつり」を盛大に催される事になりご同慶に存じます。

皆様方には本町産業の振興とその発展、郷土づくりに日夜ご努力なさっておられます。しかし、当面する農政の米の生産・需給均衡化対策から起きた減反政策では、農業の生産意欲を減退させつつあり、食生活の文化から美味しい米も「米離れ」の現象がひろまりつつあります。そしてこれら現象が経済にも影響し悪化の一途をたどっています。

こうした多様化する今日社会情勢下では、何か大切なものをお互い見失いそうな気がいたします。郷土づくりは、生活・年齢・職業は違っていても集ったものがお互い仲間意識をもって参加し行動を起すことに意義があります。

幸いにも、本年は多くの団体、生産者の方々が賛同され「千代田まつり」の行事が行われます。祖先の遺してくれた誇り高き千代田の歴史と伝統をふりかえり「千代田まつり」とおして労働と生産の喜びは何であるかを考えていただきたいと思います。そして、日々の生活をかえり見て、本当の豊かさ・幸せとは何かを見い出していただき、明日の生産意欲を盛上げていただきたいと思います。

また、本町の基幹作物は米であります。生産者の方は良質米づくりに、消費者の皆さんはおいしい千代田米を一層お引立て下さい。

千代田まつり実行委員会副会長

千代田町商工会会長 上川 竜 男

凡そ日本で祭と名のつく行事は数え切れな
いほどあると思います。祭はどんな祭でも長
い歴史を持っており、今日まで継承して来
ておるはずで。今年から始まろうとしている
千代田まつりはこれから先、ずっと長く続け
て行く考えであると思います。町内28の団
体が協賛して行く行事ですが、祭りの目的
と祭の核たるものをよく研究し、又、理解
をしてこの祭が町内だけの祭か、広く町外
へ呼びかけて、広域の人が参加する祭と
するか、その重大さを認識する礎として考
えるものです。よって商工会としてはこの機
会を捉え商業部門では商業の活性化を図
り、又、工業部門では各企業のPRと存在
を御理解いただく最もよいチャンスだと思
います。農工一体論の通り千代田町は今や
農協・商工会が一丸となって所期の目的を
達成すべく努力して行かなくてはならない
と思います。

将来は町の行事だけに止めず近隣町村共
に連携を取り合って合同祭にして行くのも
一つの方法ではないかと思ひます。他から
人を吸引しようとするならば唯一つの物
では飽きて来ます。各町のそれぞれの特
徴を生かしてこの際、大型祭を考へるの
もよい機会ではないでしょうか。古くから
官民一体になってと言ひうことがありま
すが、今時は民官が協力し合ひってと言
ひう事を最近耳にしてあります。

各団体の知恵を借り、力を借りて地元
の者が喜び、又、外来客からも喜んで
もらえる祭り作りを一日も早く出来る
ことを望んで止みません。

千代田町議会議長 福 光 重 季

「……ふるさとの山はありがたきかな…」
ふるさととは、天であり、地であり、川
であり、温かい心であります。

そのふるさとを愛することはすなわち自然
を愛するということであり、自然に帰ると
いうことでもあります。

世情、万物とも有為転変、昔日を残さず。
今こそ「ふるさと」を愛する心を育てること
こそ大切なことではないでしょうか。

この度、町を始め28団体からなる千代田
まつり実行委員会が組織され、「連帯と活力
にみちた郷土づくり」をテーマとして開催
されることになりました事は、当を得て意
義深くまことにご同慶のいたりであります。

町内の各種産業生産物が、はたまた古
くから培われてきたもろもろの伝統・芸
術、日々新たなる文化の香りが、名づけ
て「町民グラウンド」、1万人の町民コ
ミュニティの場に繰り広げられることは
、まさしく躍進千代田のたくましい姿を
象徴するものであります。

この千代田まつりを催すことによって、
住民は労働と生産の喜びを分かちあい、
異郷にある多くの方達は、改めてふる
さと千代田の良さに思いを寄せ、近隣
近在には広く本町の姿を宣伝、啓蒙
することでありましよう。

かくして本町の標ぼうする内陸拠点
都市として調和のとれた町づくりに生
気をよび、活力をかもすであろうこと
と固く信じて疑いません。

画期的大行事である「千代田まつり」
に参画された関係者各位のご労苦を謝
し、盛大にして有意義、そして明日へ
の大きなエネルギーとなることを念
じてやみません。

千代田町青年連合会会長

箕野博司

今年は、文化祭10周年を迎えた。よくいわれる「10年一昔」という言葉は、10年という年月の移り変わりの激しさを語っている。その移り変わりの中で続いてきた文化祭、今、10年の重みを強く感じる。先輩達が築き上げたその土台に立ち、これからも一段一段積み上げていかなければならない。そのためにも私達は今一度原点に帰り、町民の皆さんと共に、文化について考えてみたい。

私達の町には、他に誇れる文化財がある。しかし、それを保護継承していくだけでは、文化の町とはいえない。伝統の中から私達が創造していくもの、そして、その過程での苦しみや喜びこそが、文化であると思う。機械文明に惑わされ、文化を、生き方を見失ってはならない。そして、私達自身が主体となり何かを創造していかなければならない。

今年の文化祭では10周年記念のポスターカレンダーと文化祭テーマソングを加えることができた。これらが、これからの文化祭の、いや文化の発展に寄与することを願ってやまない。

原点に立ち、みつめよう我々の町を
原点に立ち、考えよう我々のなすべきことを
原点に立ち、夢見よう我々の未来を

千代田町中央公民館長

増本利明

第10回、千代田町文化祭が、「原点」（古き時代からのメッセージ）をテーマとして、極めて盛大に挙行されますこと、誠に御同慶に存じます。

一口に10年と言いますが、その間幾多の困難をのり越え、今日の隆昌を迎えるに至りましたのは歴代の青年会諸君を始め、御協力をいただきました関係皆様様に深甚の敬意と謝意を捧げたいと思います。

日本経済は、戦後他国に追いつけ、追い越せの掛声のもと、国際社会の中で、押しも押されぬ経済大国となりました。しかし、そのひずみは、いろいろの面において問題を生じこれらの対策が叫ばれだして久しいですが、一日も早く文化の国日本になりたいものです。

10年一区切り、今日大小さまざまな問題をかかえる中で、テーマに掲げられたごとく、もう一度、過去をふり返り、何が訴えられているかを正しくとらえ、熱と英知をかたむけ明日への躍進に備えなければならぬと存じます。

千代田の文化の創造のため、一万一心もえたたせましょう。

有田神楽団 [神 迎]

この神迎えは、神社以外の場所で上演する時に、神を勧請するための儀式舞といわれている。登場人物は神降しの神人と同様の服装であるが、神人が4人である。



神	中 岡 貢 三	大太鼓	河 原 一 次 郎
”	松 川 博 之	小太鼓	大 丸 義 博
”	森 分 義 治	手打金	小 田 日 出 男
”	二井川 敏 之	笛	河 原 正 人

旭神楽団

[紅葉狩] 新舞

代表 原 元

旭神楽団は遠く室町末期頃より、出雲文化の流れをくむ芸北神楽、南方本郷神楽団として創設され、由緒ある郷土芸能として幾多の変革を経て今日に至っている。その間、戦争により一時中断していたものを、昭和23年若者の意欲的な情熱と旧舞子の方々の熱心な手ほどきにより復活させるや、各種競演大会に積極的に出演し、数々の賞を受賞、特に芸石神楽競演大会では、3年連続優勝2回の栄を受けるに至った。

神	菅 田 豊 伸	鬼	竹 盛 英 幸	小太鼓	池 田 寛 己
”	箕 田 義 光	八幡 大菩薩	本 田 正 則	手打金	舍 川 手 久 士
大王	山 根 敏 昭	大太鼓	竹 盛 清 三	笛	小 下 稔

町内神楽発表会

10月31日午後5時より

開発センター

出演団体の紹介



川西神楽団

[葛城山] 新舞

代表 竹 下 英 男

川西神楽団は、岩見の矢上より伝えられた神楽を基に地元の協力を得まして、有志により受けつがれています。現在は団員14名で、川西八幡神社を中心に活動を行っています。私たちの郷土にあり、直接肌で感じられる神楽を保存するために頑張っています。

頼光	兼 藤 敏	胡蝶	森 中 宏 三	小太鼓	竹 下 英 男
季武	宮 本 義 則	土蜘蛛	岡 本 義 夫	手打金	溝 畑 忠 美
金時	江 田 正 行	大太鼓	隅 坂 利 昭	笛	山 田 和 男

今田神楽団

[鈴鹿山] 新舞

代表 川 野 昇

今田神楽団は百年以上の歴史を持つ古い神楽団です。昭和30年ごろまでは島根県矢上地方より伝えられた岩見神楽を奉納しておりましたが、昭和30年ごろより近代的に面白く編曲された新舞を高田郡よりとり入れ現在にいたっています。

現在の団員数は23名で先輩の指導を受けながら、郷土芸能保存継承の為練習にはげむとともに、県内はもとより県外に出演し高い評価を受けています。

坂上田村麻呂	比奈田 恭 吾	犬神丸	上 田 栄 治	手打金	河 原 忠 義
夜叉丸	五反田 峯 雄	小 鬼 増 本 宏	笛	上 田 重 人	
和田翁	広 森 健 司	大太鼓	新 井 鷹 登		
あやめ姫	柳 原 隆	小太鼓	松 野 正 文		

河内神楽団

〔日本武尊〕新舞

代表 河野峰雄

河内神楽団は60余年の歴史をもち、県内はもとより、県外各地で招へいを受け好評を得ているところです。団員は長老から若い層まで19名で組織し、シーズンになりますと長老団員の指導をうけ、郷土芸能を継承するべく励んで居ます。

又、当神楽団は「和」をモットーに和気あいあいに活動をつづけて居ます。

神	広藤正則	悪	寺田清之	手打金	藤本鶴夫
姫	寺川英昭	大太鼓	貞広	昇	笛 大月義毅
悪	近本崇治	小太鼓	大月	磐	

中川戸神楽団

〔伊吹山〕新舞

代表 藤井久司

中川戸神楽団は、記録によりますと明治19年に初めて神楽が奉納された。当時は旧舞で今日まで受けつがれています。途中、大東亜戦争の最中8年の中断がありました。戦後高田郡より新舞をとり入れ以後、先輩、後輩と受けつぎ今日の隆盛をみており、特に各地からの招聘は数年前から一段と多くなり、県内外から好評を博しています。団員は20名で構成し常に研究と充実した神楽にするためひたすら練習に励んでおり、又他団体との交換会等研賛に努めています。中川戸神楽団のモットーはお互いが戒めあって誠実と真面目に努めることとしております。

今後更に充実した神楽団として伝統ある郷土芸能を立派に守っていくことを誓うものであります。

日本武尊	山崎隆司	賦	大田雅之	手打金	杉井範剛
神串の尊	前岡壮典	鬼	羽原博明	笛	丸亀臣人
チャリ	池本正博	大太鼓	太夫本那和		
賦	羽原博明	小太鼓	名和手公博		

蔵迫神楽団

〔鍾 馗〕旧舞

代表 山手孝允

明治35年ごろ地元の有志が相集り、石見の国矢上神楽団を尋ね、石見神楽を安芸の国蔵迫村に持ち帰り、以後蔵迫神楽団は近隣の郡内に一週間以上も神楽奉納に廻り、益々隆盛をみるに至った。しかし、大東亜戦争末期より若者は都会に出て継承者がなく停滞したが、昭和35年頃より再び蔵迫神楽団を継承発展すべく頑張ってきており、石見神楽（旧舞）の伝統を守っていく所存です。

神	中村繁人	大太鼓	山手孝允	手打金	柳川隆美
鬼	和泉忠芳	小太鼓	城幸雄	笛	土井正昭

有田神楽団

〔塵 倫〕旧舞

代表 河原正人

有田神楽団は、有田八幡神社を中心に氏子の人々によって神楽団を編成し、秋の収穫を祝福し、氏神様に感謝する神事として今日まで伝承されて来たものである。団員は20歳代から70歳代までおり、中には50年以上精進奉仕したものもいる。

古い歴史と伝統の自覚に燃える有田神楽団の上演種目は、神降し、天の岩戸、大岐大蛇（何れも広島県無形文化財指定）をはじめ剣舞、塵倫、八幡、神武、切目神功皇后、熊襲、天神、恵比須、莫塵（ござ）、おしき、日本武尊、志朱、悪孤大江山、紅葉狩、鐘馗等20余となっている。各地の氏神祭や招魂祭その他の行事に招聘を受け、四季を通じて上演奉納している。

神	松川博之	大太鼓	高杉茂	笛	隅井哲雄
供	二井川敏之	小太鼓	中岡貢三		
鬼	小田藤夫	手打金	小田照夫		

山王神楽団

〔悪狐伝〕新舞

代表 松村広人

60年近く継承され続ける山王神楽は、衣裳、演技ともにすぐれ各方面に好評を博してきました。戦後、高田方面より新舞を教わり最近では研究に練習に励んで、県内はもちろん県外にまで出演、好評を得ています。

神	藤岡一男	玉藻前	広田武彦	小太鼓	是角一男
〃	是角久男	狐	川本積	手打金	石川文人
和尚	村城浩三	大太鼓	富田晴生	笛	松村広人

上本地神楽団

〔大江山〕旧舞

代表 中光紀明

100年近く、継承され続けている上本地神楽団は、各方面で好評を博して来ました。明治頃石見から、大正頃大朝から戦後高田からそれぞれに新しいものを教わったものです。最近の衣裳は後援会、団員の並々ならぬ努力で揃え競演も数多く出場し活躍しております。現在団員も若がえり毎週3回の練習に励んでおります。

坂田金時	藤原耕治	酒吞童子	広能明	手打金	山口克也
渡辺綱	花木利明	茨城童子	仲野末雄	笛	田中久夫
紅葉姫	花木辰雄	大太鼓	西田輝人		
爺	橋本徳夫	小太鼓	中光紀明		

展 示 ・ 催 し の 団 体 紹 介

● 千代田町婦人会 ————— 会 長 立 川 澄 子

私達の婦人会は婦人の教養と地位の向上につとめて地域社会の向上発展を図ることを目的に、昭和30年4月千代田町連合婦人会として発足致しました。以来26年間先輩の努力によって発展した現在の千代田町婦人会です。会員数2,092名、ひとりひとりのつながりを大切に、福祉活動を重点目標に明るい住みよい千代田の町づくりに努力致しております。

主な活動内容

- (1) 年1回大会を開いて会員相互の連絡、研修、親睦を計る。
- (2) 婦人会活動の一環として『婦人会だより』を発行し、会員の交流を深め組織の連帯を強化する。
- (3) 『千代田まつり』と『文化祭』に参加協力する。
- (4) 健康づくりのため検診の推進、食生活改善リーダー研修、バレーボール大会、体力テストを行う。
- (5) 社会福祉のために環境改善、青少年の健全育成、老人の実態調査、仁愛園慰問、同和研修、政治研修、コミュニティ研修、交通安全母の会研修等。

以上の事を学習、実践して婦人団体として地域で果す役割をみんな考え、会員ひとりひとりがボランティアになる様努力しています。

● 千代田町農協青壮年連盟 ————— 委 員 長 中 野 芳 信

今、農村をとりまく状況は、水田再編に名をかりた米の生産調整、貿易不均衡に名をかりた海外農畜産物の輸入外圧と、まさしく内憂外患のきびしい状況下になります。どれひとつみても国民食糧をどうするかという民族の基本的選択にかかる超政治的決断が要求される課題であると同時に、我々が単に経済的、技術的に努力改善しても解決出来ない国民的合意を要する課題でもあります。しかし、我々農村に生き、農業で生きていこうとすれば、これらの課題を回避して通るわけにはいかない。農業経営を軸にした基本農地の確立を、強力に政府へ要請しなくてはならない。我々は農政連の旗の下に結集し、少数ながらも地域社会のみならず生産組織のリーダーとして、情勢打開のための方法を模索し、一致団結して力強く運動の展開をしていくことの必要性が指摘されます。

活動内容 ①基本農政確立を中心とした農政活動の展開 ②組織強化、営農の高度化について盟友対象に合同研究の実施 ③農協事業の積極的提言 ④先進地の視察 ⑤農畜産物の消費拡大運動実施

以上を活動の内容として、伝統と歴史に裏づけられた新しい農青連運動の創造と発展に取り組んでいます。

● 千代田町農協婦人部 ————— 部 長 竹 下 富 美 子

農協婦人部は農業を守り社会的、経済的地位の向上をはかり、農協運動の担い手となり、又農協をよりどころにして健康で明るい豊かな農村を築くことを目的として活動しています。

- ①貯蓄の推進 ②傷害・火災共済の推進 ③健康管理 ④生活用品の共同購入 ⑤食生活の改善(米の消費拡大) ⑥家庭菜園の拡充、野菜の品評即売会 ⑦農機研究部会 ⑧廃物利用 ⑨手芸等のグループ活動

● 千代田町農業問題研究会 ————— 松 島 重 臣

略して農問研と呼ばれる私達の会は、皆様ご存じのように農業者、農業後継者の集団です。

会の主旨は、名の示すとおり農業諸問題の研究、それに会員相互の親睦を図る事を目的としています。現在会員数20名です。昨年は「基盤整備」を、今年は「堆肥」をテーマに勉強しています。我々のクラブも結成以来10数年経過し、クラブ員の高年齢化という避けがたい問題点や若い農業青年の減少により、多少エネルギー不足になってきました。この機会をお借りして若い皆様に訴えたいと思います。日本の農業「千代田の農業をどう位置付けてゆくのか」に関心をお持ちの方、自分の営農にお悩みの方、特に若い女性の方、農問研究で一緒に問題点を考えてみようではありませんか。今回農問研では、千代田まつりに積極的に参加し、皆様に秋の味覚をお届けいたします。みかん、りんご等安価になっております。ご利用下さい。

● 千代田町酪農協議会 ————— 会 長 後 案 悟

「エコノミストからみた日本農業の未来像」について国民経済研究協会の叶芳和先生の講演を聞く機会を得ましたが、おりからの行政改革、特に財界からの農業に対するつきあげと並行して同協会の提言が、今後どう発展していくのか興味のもたれるところです。同講演の主旨を紹介し、あいさつに代えさせていただきます。世界の農産物輸出国は先進国であって低開発国ではないという点に着目し、これら先進国に共通する特徴として、次の5点を挙げている。

- ①農業人口少ない(第3次産業人口多い) ②国民財政豊か(構造改善等の財政負担) ③教育水準高い(人材の開発) ④科学技術の水準高い(機械、新品種の開発) ⑤市場経済競争市場(自由競争による価格決定)
- 一方農業は、軍需産業と同じ研究開発型の産業であるとして、将来最も伸びていく可能性のある産業だとしている。日本農業の現状はどうであろうか、日本古来の水稲技術でさえ決して世界的には高い水準でない。まして酪農はアメリカの高泌乳技術と比較して15~20年は遅れているといわれる。事実それを認めざるを得ない。なぜそうなってしまったのか。それは物価補償政策によってぬくぬくと生きてきた農家及び指導者に大きな責任がある。その結果、日本の消費者は国際価格の倍もの負担をして農畜産物を消費させられている、生産過剰というなかでこの高い補償価格を維持することは不可能である。

それではコストダウンを図るにはどうすればよいのか。①現行の補助金制度を全て止め、土地基盤整備のみに集中資本投下する。②借地農業を育てる。③優れた農業技術開発者を育成する。④市場を自由競争制にする。結果として階層分化がおこり大型農業経営が生まれ'90年代日本農業は農畜産物輸出国になることが出来るという。

生活改善グループ

むつみグループ

(小木次)

代表 藤石 みどり

38年8月に発足したグループです。稲作りと健康管理を活動の柱としていましたが、今では転作物の有効利用に取り組んでいます。会員数は現在7人です。私達の十八番は大福もちです。結婚式の祝いもちとして、おみやげとして大活やくしています。開発センターで11月1日実演会をしますので、是非お越し下さい。

寿グループ (中山)

代表 三谷 スミ

私達のグループは昭和46年に出荷野菜グループとしてうぶ声をあげました。会員数11名、出荷野菜は春秋レタス、ピーマンを主体に豆類を少々入れております。生産グループではありますが、生産面ばかりでなく、一家の主婦としてバランスのとれた食生活を考え、加工にも目を向けています。今までに味噌や麴づけを試みて、生活に役立っています。11月1日には、味噌の仕込みの実演会を開発センターで行う予定にしています。

あゆみグループ

(移原)

代表 石井 イサミ

38年4月に発足したグループです。現在の会員数は14人です。発足当時は若かった私達も年を取り、活動内容も子供の育児から自分達自身の生き方へと変化していきました。

最近は転作も多くなり作ったものをなかなか効率的に利用することは困難ですが、転作物を有効に利用することにより農家らしい暮らしをすることを目指して活動しています。

はぐるまグループ

(三日市)

代表 宮田 千代

40年7月に結成したグループです。会員数は現在8人で主に手づくりおやつに取り組んでいます。

私達グループの十八番は桜もちです。5月の終り頃、グループ員全員で桜の葉を取り塩づけをしておきます。会合する時の菓子としておみやげとして重宝がられています。今年の千代田まつりには婦人会のバザーの一品に加えてもらっていますのでご試食下さい。

農業の発展に寄与する

農機具を!

千代田農機具商業協同組合

千代田町老人クラブ連合会

会長 前原 弘三 会員 1,200名

千代田町老人クラブ連合会は、町内20単位クラブで構成しており、会員は1,200名です。

単位クラブや町老連の行事で活動しております。

町老連では

1. みんなで語り合う喜び
1. 奉仕作業をする喜び
1. 自分をみがく学習の喜び
1. 趣味に生きる喜び
1. 体育と旅行の喜び
1. 寝たきり老人の慰問や老人と子供の交流

この外単位クラブの行事もあります。これら数多

い活動を基盤として生きがいを高めること。また明るい町づくりに努力し、敬愛される老人となるよう活動を行っております。今回も、文化祭・千代田まつりへ参加し、作品発表等をして行きます。



千代田町商工会青年部

部長 坂本 範章

千代田町商工会青年部は、昭和43年に発足し、現部長が10代目となっております。発足の主旨は、町内商工業者の若手育成であり、当時は事業後継者の内、独身者のみを対象に部員を募集し、10名余りで発足いたしました。途中で退部する者、入部する者があり現在27名が青年部に在籍しております。

青年部の目的は、商工会の本旨に則り新しい町づくりを主眼に清新強力なる実践活動により、旧来の悪い因習を打破し、現代に即応した商工会の体質改善を図り、千代田町の商工業の振興発展の先駆となることでもあります。今年は特に「意識の向上と団結」を目標にかかげ、部員同志が助け合いをしながら難問題に挑戦いたしております。

環境衛生青年部

県青連千代田支部

支部長 中 島 幸 雄

私達青年部は、広島県料飲飲食業環境衛生同業組合所属の青年部連合会千代田支部で、略称「県青連」25支部有の40歳未満をもって結成されている団体であります。

親団体の傘下にある青年部であるがゆえに各青年部の交流を図り、組織を認識し互いに友好を深め、団結を強化し、交流を深め地道に切磋琢磨することのみならず奉仕の精神にも徹し、青年らしく羽ばたこう等々の目的をもって運営されている我々青年部であります。

当支部は後継者を始め、若人15名で運営に当たっています。最近では工業建設部会の、のど自慢大会の時のバザーの売上げの一部、又各店に設置してお客様各位に協力して頂いている「愛の小瓶」運動の一部を千代田町福祉協議会を通じて善意銀行へ入れさせて頂きました。又、毎年2回市民球場で開催されるソフトボール県大会に出場し、部員同志の親睦を深め合っている我々青年部です。

山県森林組合

山県森林組合は、千代田町、豊平町、大朝町の三町森林組合が、昭和48年3月合併して設立され千代田町役場に隣接して事務所を設置しております。

ご承知のとおりこの地方は広大な山林資源を擁していますが、主として農業を中心としており、山林はわずかに木炭生産と若干の用材生産であり、また昨今のいちじるしい社会構造の変化により、特に森林造成はかなりおこなわれている傾向にあります。

このため、この組合は組合員が協同して、その経済的、社会的地位の向上並びに森林の保存、培養等森林生産力の増進を目的とし、23種目からの事業を行っています。

千代田町林研グループ

私達は、自主的なグループ活動を促進しつつ、林業技術、林業経営の研究改善を図り、地域社会の向上に資することを目的に研究会を組織しています。

会員は15名で、活動内容は、会員一人ひとりが、将来においては、優良大径木の生産をすることを夢に描きながら、現在、林業知識を深めるとともに、植林、下刈り、枝打ち、間伐等を行っています。

これまでの活動実績は、右のとおりです。

年 度	造林面積
昭和52年	6.27 ha
昭和53年	7.07 ha
昭和54年	5.44 ha
昭和55年	4.00 ha



千代田の木のイメージアップを図る

千代田木材組合

組合長 美 濃 豊 泰
〔県登録業者 19名〕

千代田の酒は
郷土の誇り!

乾杯は日本酒で!!



可部酒造組合
千代田会



千代田町商工会工業部会展示物・企業あんない

企業名	展示品	点
千代田興産	ベッド・座椅子	2点
中野石材	花びん・花台他	20点
ユニオン	自動車ドアトリム	
西日本エムテーピー	原反・バンパー他	23点
桑本建材	建材・ブロック・左官材料他	13点
タカキベーカリー	パン・洋菓子他	
モルテンゴム	モルテンボール他	50点
広浜	タタミ他	5点
藤野綿業	洋フトン他	40点
千代田ボデー	自動車10台・タイヤ・ミニ建設機械	
クレイン	グンゼ製品	50点
千代田装備工業	カーシート5点 工程パネル1点	
山下自動車	ダイハツ車4台・イズス車5台	
日本安全機材	投光器他	30点
河内家具	ベッド	4点



千代田興産株式会社

ロビンの登録商標で御愛顧いただいております。ウレタン製品は、中国・四国地方で販売エリアを持ち、ロビンベッドは関東、北陸、九州遠くは沖縄までご好評をいただいております。社員一丸となって県外販売により地域社会への貢献につとめております。

桑本建材株式会社

生コン工場は日本道路公団中国縦貫自動車道、千代田インターチェンジ、中国横断自動車道等の中心地である千代田地区を基点に、山県郡東部・高田郡西部・広島市安佐町に至る一連の供給網を完成し、設備能力も最新鋭の機械を取り入れ、原材料等も業界に古くから定評のある徳山セメントを中心に十分吟味した良質な資材を配合し、卓越した技術により品質の優れたレデーミクストコンクリートを製造供給致しております。

有限会社 ユニオン

地域に密着した企業として、地域住民と共に努力し、日夜前進しております。

広浜株式会社

住宅資材メーカーである大建工業㈱と共に開発したダイケン畳を主力に、小企業の利点を生かし欠点を補うべく、労使一体となり「和」を基本とし、当地方はもとより、広島経済連、三井グループ、大和ハウスの指定を受け、中国地方各地への営業を展開中である。

有限会社 山下自動車工業

当社は皆様の足となる自動車の整備・販売を主とし、産業機械及びこれに関連する諸機械の整備を優秀な技術員が誠意をもってサービスに貢献しております。

藤野綿業株式会社 千代田工場

当社の生産品名としては、天使ソフトナプキン、フジノ洋ふとん、化粧綿、不二わたなどありますが、千代田工場は、昭和42年6月より創業を開始し、時代の流れと共に設備の合理化、近代化によって月産40,000枚の月の友寝具のふとんを製造しています。

健康は快適な睡眠より生まれる。これをモットーに従業員一同伝統ある会社と流行の先端を行く千代田工場が良い製品をより多く作る様に努力し、誇りと自信に満ちた毎日を過しています。

有限会社 千代田ボデー工場

1. 日本道路公団指定事故車排除業務及びクレーン作業の指定業者で24時間体制で一般のご用命にも応じられる態勢でおります。
2. 自動車の車検整備は陸運局長指定の民間車検場として広く町内外はもとより、県外からのご用命も頂いております。
3. 自動車の販売も専属の営業部員によりご相談に応じ、又、板金塗装も専門の車体整備士によりご要望に応じております。
4. クレーン作業及び産業車輛の販売、修理及びリース業
クレーン車は20t、11t、5tを保有し、用途に応じたクレーン作業及び各種建設機械の販売、修理及びリース業も営業しております。
5. 其の外、全日本ロータースクラブ及び広島自動車青年会議所に所属し、又、同栄社・日教済・学生協の各指定工場として広くご利用を頂いております。

日本安全機材株式会社 千代田工場

土木建築関係の安全機材の製造・販売によりご利用いただく方々に、より安全によりよい仕事をしていただくべく心をこめて努力しております。

千代田装備工業有限会社

当社は、南条装備工業㈱の協力工場として、マツダ車のシートを縫製製作して現在に至っています。其の間、オイルショックとか色々な波をかぶってまいりましたが、幸いな事にマツダ車の売り上げも非常に伸びてまいりまして、その恩恵を私達も受けている次第です。

当社の方針としては、作業上において社員一人一人が、その持ち場において細心の注意を払い、丁寧にかつ迅速に製品に対し個々に責任をもち、不良品を出さないと言う方針であります。しかし、作業を離れますと、家庭的で和気あいあいと談笑し、くつろいでいます。今後共、マツダ車のシート製作に全員が努力して取りくんで行きたいと思っています。

モルテンゴム工業株式会社

最新の設備と自社開発による合理化機械を駆使し、車輛用をはじめとして建設・船舶・土木等各業界に亘ってあらゆる品種のゴム製品の需要に答えている。

特に球技用ボールについては、バレー・バスケット・サッカー・ハンドボールの国内は無論のこと国際的にも公認球として認められており、オリンピック並びに各種競技に使用され「モルテンボール」は世界のブランドとして信頼され活躍している。

クレイン株式会社

豊かな人間像と希望に燃える日々の人生を求め、そして自分自身がそれを築いていく事を生涯理念として我々は誇り高き「ゲンゼ」の協力員としてクレイン㈱に結集し、信頼と愛情に徹すると共に責任と誇りを持って最高の商品を世に送り出し、より多くの人々に愛用して頂く事を持って経営の理念とする。

婦人の働き場所として環境のよい、又よりよい人間関係を持つ工場経営をモットーに労使共々に共存共栄を図って地域社会のため精進する。

特色 企業内保育所130㎡、定員20名。

企業あんない

株式会社 タカキベーカリー 千代田工場

昭和45年5月パン業界の注目を集めて、この冷凍工場は、ペストリーの製造を始めました。その当時、パン業界を除いた他の食品業界では新しい食品流通システムであるコールドチェーン化が急速に進みつつありました。ところがパン業界にあっては生鮮食品であり、生きものであるパンの性状からみて無理であるという常識が支配していました。この常識に挑戦したタカキの技術陣が「生きものであるパン生地段階でいかに冷凍化するか」という最大の難問に悩み、10年の歳月にわたる研究の結果、我が国で初めての冷凍パンを開発することが出来た訳です。

この技術革新は、単なるパンの流通の合理化を目的としたものではなく、新鮮な焼きたてのパンを、又は洋菓子を直接消費者の方の食卓にお届けするということを願ったからに外なりません。従いまして、この工場は常に安定した低廉な商品が鮮度を保たれて消費者のご家庭に渡るまでの一貫したシステムを貫いて、今後も皆様方の食生活の中でお役に立って行きたいと願っております。

有限会社 中野石材工業

現今、各種産業の発展と共に石工業界もその近代化を進められて来た。わが社も確信ある販路を有し業界の最先端を走り、機動力と輸送力を強化して製品の大型化を図り、そのため工場及び機械設備の画期的体質改善、諸施設の拡張等、万全を期すると共に、優良従業員の増員確保に努め、功妙なる技術を修得発揮し、使用石材も質、色彩共に絶対他の追従を得ない。郷土産千代田石を始め、内外産の良質石材を選定し、そのルートを研究、他より安価に導入し、生産コストにも常にたゆまざる研鑽努力を重ね、採掘から加工、据付まで一貫生産をなし、よりよい製品をより安く且つ速やかに納入出来、お客様の御満足を得ることをモットーとしている。

株式会社 河内家具製作所

原材料から安らぎの夢見る迄のベッドの一貫製造。

H3ドリームベッドの協力工場として、25年の現在作りつづけています。日本国内は勿論のこと、海外にも輸出している現状です。

社員一同益々研究を重ねてより優秀な商品を生み出す事に日夜努力し、地域社会の発展のために貢献したいと念じています。

西日本エム・テー・ピーKK

親会社である井上エムテーピー株式会社では、80年の歴史をもとに新しい統一ブランド「INOAC」「イノアック」を誕生させました。「新しい井上の「活カ（アクティブ）ある」「実行（アクション）する」という活動姿勢を表します。私どもは、三ツの素材、ゴム・プラスチック・ウレタンを総合力を生かして、皆様のニーズに合わせ、選択し、組み合わせ、用途によっては、他の素材と複合化して使っております。プロセス全体をトータルシステムとして設計より配合・設備・加工などあらゆる面でプロセス全体としての最適条件を作る中で取組んでいます。

創業以来、私どもは「優れた製品を通して社会に奉仕する」精神で歩み続けてまいりました。社会の発展・多様化に対応し、更に「使う心を考える」ことをモットーとして社会的役割を果たす中で、たゆまざる自己革新を行っていく所存であります。



文化祭テーマソング わがまちの秋

作詞 (秋田新五郎)
作曲 清水勇二



1 わがまちの秋は きれいな秋とて きれいな



2 きれいな秋とて きれいな秋とて きれいな



3 きれいな秋とて きれいな秋とて きれいな



4 きれいな秋とて きれいな秋とて きれいな






5 きれいな秋とて きれいな秋とて きれいな

きれいな秋とて きれいな秋とて きれいな

一 無りも近い秋の日の
晴向をさして
夜にこぼれる音の音は
わがまちの歌
それを聞きながら人は生きてきた
明日を信じよう
そうだと君と
明日にアアけよう
そうだと君と

二 直糸にうれた木の葉を
ひとり見上げた
この木が根をさす わがまちの
うかりかいらを
じつと見つめて人は生きてきた
きのうをみつめよう
そうだと君と
きのうを見つめよう
そうだと君と

三 白い霧の海の下
わがまちがある
霧の消える朝
きくと晴れだそう
それを信じて人は生きてゆく
明日を信じよう
そうだと君と
明日を信じよう
そうだと君と

文化祭10周年記念事業について

武一とわたし

300年続いた徳川幕府の終りと共に新しい政府が生まれ、何もかもが未知の中に放り出されようとする頃の事に私達は取り組んだのです。

次元は違うけれども「物」を追い求め、ものの豊かさの中にとっぷりつかった私達が、新しい時代に足を踏み入れなければならない現代に置きかえ、新しい社会・新しい自己の生き方を見いだす原点としようという意気込みで劇「武一」に挑んだのです。

副題に「むなくとからの叫び」としたのは、むなくと=田の水が出る場所を農業の起点と考え、先人達の営みのすべてであった農業から私達の経験し得ない過去の文化の源を探ろうという意図を持っています。

ききん、年貢の取り立て、青年の想像を絶する生活を、書きものや言い伝えから知り、初めの感傷的な思いあがり、武一像が少しずつ表れるにしたがって薄れ、私達がいろいろの面で非力であることを知ったのです。

機械文明・物資文化といわれる現代社会の中で、私達は無意識のまま、ただ流されて行くのではなく10年を経た我がまちの文化祭の中で今一度、私達自身の文化を確かめ『行動』の中で見いだしたいのです。

- ポスターカレンダー作成 (デザイン・石井誠治)
- 文化祭テーマ曲作成 (作詞・作曲 清水勇二)
- 文化祭歴代実行委員長からのメッセージ
(パンフレットによる)
- 劇 武一 むなくとからの叫び

記念公演としての創作劇・武一 むなくとからの叫びについて

一年一年を重ね、今年で文化祭も10年を迎えました。ここまでには数多くの苦労があったと思います。十年一昔と言われるように10年を1区切りと考えて、テーマを「原点」、副題古き時代からのメッセージとして、これまで文化祭を積み上げてこられた方々に敬意を表しますと共に、今後さらに千代田の町民の文化祭として発展することを願って、記念事業を上記のように実施しました。皆様の温いご理解をいただければ幸いです。

箕野博司

文化祭10年…そのあゆみ

第1回



山下 誠治

第10回文化祭を企画された青年の皆様、実行委員の皆様おめでとう。

そして、第1回文化祭から第9回文化祭の各実行委員の諸君、ご苦労様でした。

過去9回の文化祭は、我々の先人の残された千代田芸能の遺産を継承し史実の足跡をたどり、又各文化サークルの発表と各分野において活躍されている皆様の努力の結晶を、私達のこの文化祭の場を通し広く千代田町の一般の皆様と接してきた事は、青年会の皆様はもとより関係各位の深いご理解とご協力のためものと喜んでおります。

ふりかえてみますのに、第1回文化祭は、前下田会長を中心とした千代田町青年連合会の偉業のあとに私達の受け継いだ千青連をいかに盛りたて運営していくか、とかく青年活動のマンネリ化といわれていた当時、懸案でありました文化祭にとりくむ事に全精力を傾注して、テーマを『若さ・情熱・英知そして団結』を掲げ青年会が一丸となってとりくむ事になりました。しかし、不慣れな為ポスターの作製、文化サークルとの交流、パンフレットの作製と他面にわたり社会部長を始め各役員にはお骨折頂いた事を記憶しております。

ともあれ、第1回文化祭は、広い意味をもって成功であったと、いま懐古している次第です。

おわりに、いつの時代にも青年は高き理想とたくましい行動力をもって万事に前むきな姿勢で取りくみ達成する事を願ってやまない。



第2回



中川 清

第10回の文化祭を迎えられ、おめでとうございます。

私が2回目の実行委員をやらせていただいた頃から比べ回を重ねるごとに参加者が増え、今では、千代田町の年中行事の中では、重要な一つになって大変喜ばしい事と思います。

今回、文化祭実行委員会より、これからの文化祭にご意見を、と言う事で私なりに一言書せてもらいます。

文化祭に行ってみて確かに、色々な催し物があり多数の人が参加されているのに、町民の一部の方しか判りません。

互いを知ると言う意味と、自己アピールと言う面からも、文化祭の会場ではネームを付けたらと思います。

一人でも多くの人に接し、円満な人間関係と、意見交換・情報の場として役立つのでは。

世の中が進んで生活が豊かになり、機能的で便利な現代、その反面複雑な社会生活、そんな中で文化祭が千代田町（郷土）のコミュニティ推進の強化の一部になる様望みます。



第3回



黒井 信壮

私達が文化祭を開催してから8年となりました。これからの文化祭に期待する事を書いて欲しいという事ですが、私達の開催した時より、時の移り変りは早いもので、現在の状況の中での文化祭は私の考えでどうしたらよいかという事は余り思いつきません。現在を生きる青年の手で、だれにも束縛される事なく、独自の文化祭を開催される事が一番いい事だと思います。私達の時は、文化祭実行委員会を結成し、文化祭の案を計画中に、千代田町合併20周年という事もあり、町と共に、産業文化祭を開催する事になり、当初の計画よりも、文化祭（青年で行う部門）の縮小をして行ったように思います。

文化祭は、実行委員が半分位まで行って、全体的な盛り上がりには欠けた気がします。産業文化祭としては町民多数の参加があり、成功であったように思います。

今後は実行委員だけの文化祭とならず青年全員(?)の参加を得られるような文化祭になるよう期待します。



第4回



清水 勇二

文化祭10周年おめでとうございます。「今あるのは、先輩のおかげ」と言われますが、私達は、ほんのわずかで、継続し現在の文化祭に育ててくれた後輩の努力のおかげと感謝しています。

さて、私が実行委員長をさせていただいた昭和50年度は「私はこのまちで……」をテーマに、文化祭を開催しましたが、青年連合会の活動が今では考えられないくらい低調な中で、一時中断していた文化祭を再開することには、いろいろな困難がありました。しかし、当日祭を2日連続して開催したり、子供から老人まで、幅広く町民の皆さんの参加をいただき何とか「文化祭」らしきものが開催できたことは、役員はじめ関係者の皆さんの熱意によるものと思っています。

今、当時の文化祭パンフレットを手取る時、数々の思い出がよみがえります。文化祭に向って頑張ってきた後輩の皆さん、青年期のさわやかな思い出が、いつまでも残る人生を歩んでください。

青年会OBの皆さん、後輩の活躍に拍手を送り、良き先輩としていつまでも彼らを応援しようではありませんか。



第5回



三宅 静香

千代田の文化祭も立派なものになってきたと思います。先日も新聞に文化祭のカレンダー作製の記事が掲載されていました。故郷を離れて生活していると、こんなニュースはたいへん嬉しく興味のあるものです。おそらく我が千代田の出身の方であれば、同じ気持を抱いたことでしょう。青年会や公民館を中心としたこの文化祭が、一人でも多くの人たちに参加し訪ずれてもらうには、まずアピールではないかと思います。私が担当している時、こんな事がありました。可部の地でポスターを見てこの文化祭を訪ずれたということです。

丁度その頃、勤務先地でしたので、案内ポスターをある大型スーパーの店内に掲示させてもらっていました。ほんの小さな事でも一つ一つの積み重ねが実になっていくのです。そして一人一人の参加によって内容が充実していきます。そんな中で町内はもとより、町内出身者で広く町外にいる人からも作品展示等されてみてはどうでしょうか、文化的なものであれば何でもよいと思います。一部コーナーを設けて紹介をするだけでもかまいません。お互いを知ることによって文化的知識の向上にも役立つと思います。最後にこれからの文化祭、この10回目を契機により発展していくことを期待しています。



第6回



隅中 竜博

この頃の季節になると、あっちこっちと太鼓の音が響き、山も美しく紅葉し田の稲刈りも終えて、のんびりとした「祭」気分を味わう時期となった。そうした中で千代田の一大行事としての文化祭だけは、毎日あわただしく違った雰囲気包まれている。私の祭に対する実感は文化祭が来て初めて祭だなあとと思うのが本音である。時の流れは早いもので、当時52年の文化祭から4年目である、といっても今年で10周年というのだからそんなに古くはない。あの当時の苦労話といえば、一番印象に残る事はテーマを決める事である。文化祭にとって最も大事なものは、テーマである「テーマとは文化祭の顔」である。この思い出は今でも心深く残っている。次に町民一人一人が文化祭に対して意識してもらう事である。一部の文化祭でなく町民全体の文化祭である事が一番望ましく、理想的であるが、それが出来なかったのが残念でした。

これから期待する事として、今まで以上に盛り上がりのある、バラエティーにとんだ町全体の文化祭であってほしいと思います。



第7回

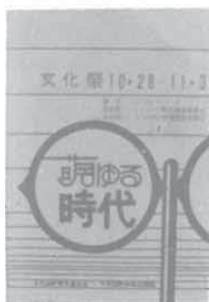


引地 靖博

味覚の秋とともに文化祭の季節になりました。53年度に実行委員長をひき受けて文化祭を進めて行って、自分自身が勉強にもなりました。今、思えばもうすこし千代田の文化、未来、郷土、ふるさと、いろいろなことについて広く目をひろげ、千代田をみつめられるような人間になりたかった。

私は思う、青年は20歳前後が青年ではない、町民全員が青年でなくてはならない。その時代の中で、あるものは芽ばえ、あるものは花開き、さまざまな形で叫び続けて来たことだろう。

町民一人一人にこの拓かれた郷土に、未来の芽ばえがあるとしたら、可能への道が開かれるなら、今、燃える努力をしてこそ時代が一步進むのではないか。



第8回



波多野 淑史

第10回文化祭の開催、誠にありがとうございます。

秋と共に文化祭も来るという感じで、私達の時も、第8回ということで過去の実績に劣らない様にと頑張ったものです。私達が実行委員をやらせてもらった年には、中国自動車道の開通とそれに伴った広島県農業祭の開催などが重なり、使用できるスペース等の問題はありましたが、多人数の参加者がありました。私が一番嬉しかったのは、会員の支援により実行委員長を務められたことで、千青連が今ここに存在していると感奮したものです。

また、近年公民館を中心としたサークル活動が活発になり、文化祭の内容も変化し、文化祭は千代田町民全員のものであるという文化祭の目指す所となりつつあると思います。

しかし、青年会においては文化祭を活動の発表の場と考えるには若干の無理があり、むしろ青年会は文化祭を実行するその過程において文化の、青年会の、また千代田町の在り方を模索していけるのではないのでしょうか。



第9回



西原 俊行

光陰矢の如しという諺がある。この諺の如く過ぎてしまえば、一時の出来事として何事もなく現在に至っているかのように思えてくる。千代田町の文化祭も意に漏れずこの諺どおりだと思う。今年10年目を迎えることができるが、単に10年経過している訳ではない。過去には、諸先輩方々の血の滲むような苦勞と団結、努力と協力があったからこそ現在にまで継続しているのである。それと根底には「我が郷土を愛し、我が千代田をどこよりも愛す」という団結したひとつの血が流れているのも確かである。

私も、昨年「ふりかえれば…そして明日へ」というテーマで実行委員長を務めさせてもらった。「文化祭は何のためにするのか？」と実行委員会を開く毎に質問された。では、文化祭とは何であろう。読んで字の如く文化の祭典である。単なる祭りではない事は確かだ。では、文化とは、簡単に言えば、「世の中が開けること」なるほど、千代田町を発展させる為の祭典なのである。

過去9回、文化祭は行われてきた。第1回より第2回というように、序々にではあるが、町民全体の祭りとして親しまれつつあることは確かだ。この先どんな出来事が起り得るかわからない。しかし何事があっても文化祭を断やしてはならない。文化祭の拡大は、町の発展につながる事は間違いない事実だから。

今年は、第10回を記念して山県武一を上演されるそうだが、文化祭を定義づける意味においては、大変意味ある上演だと思う。私も陰ながら応援させていただきたい。最後に第10回文化祭が大成功に終る事を期待してやまない。



千代田高校石碑をたずねる会

生徒と一緒に、千代田町周辺の石碑調べをしました。碑は、何も語らず、静かにつたっています。これらの碑には、人々の喜びや悲しみ、苦しみ、怒り、さまざまな思いがあったに違いありません。これらの思いを我々は、少しでもつかみとればと考えて、とりにくみました。調べた数は、全部で56です。忠魂碑、顕彰碑、歴史的なもの(クロガネモチ、墓)など。拓本をとったり、話を聞きに行ったり、汗と苦勞の結晶を『いしぶみ一千代田と世界を結ぶ歴史』として一冊の本にまとめました。一生懸命にとりにくんで調べたのですが、わずか半年間という短い期間でしたので、不十分なところもたくさんあると思います。ご指摘いただければ幸いです。



千代田中学校美術部

私達のクラブは、3年5名、2年3名、1年1名の計9名の小クラブです。でも、クラブのふんいきはいつもにぎやかで、作品があまり進まないときもあります。文化祭に出品した作品は、やまたの大蛇、花笠踊りの版画と、田楽のぬの絵です。ぬの絵を仕上げていくうえで、色の変化、にあう色のぬのを探したりするのがたいへんでした。何度も何度もはりかえ、ときにはやめたくなる時もありましたが、ようやく自分達の満足いくものができたのです。ほんとうに長い時間をついやし完成がまじかになったときは、うれしくてわくわくしました。千代田町の文化祭に出品させてもらうのが、とてもうれしいです。

これからやろうと思うことは、今まで大作ばかりだったので、個人作品を作っていきたいなと思っています。

これからもみんなと協力して、がんばっていききたいと思います。



千代田中学校家庭科クラブ

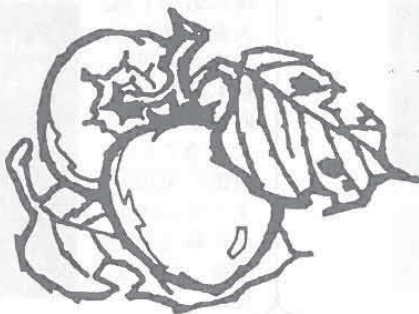
私達家庭科クラブは、3年生5名、2年生4名、1年生2名、計11名です。この4月からクラスで学習したことは、畑を耕し、野菜や花など植えました。夏の合宿では照りつける暑い太陽の下で汗を流しながら、草取りをし、夜は新鮮な野菜で料理をして食べました。

一つの野菜や花を作ることがどんなに苦しいことか、またどんなに小さな心づかいが大切であるか、汗を流してみてもわかりました。

もうすぐさつま芋の掘れる時期になりました。小豆もできました。冬にかけての調理実習に使用しようと考えています。

また手芸など、なるべくお金のかからないように、残り布を利用し、みんなでいろいろ考えて作品を作っています。

今回の作品は残り布を利用し、一人ひとりぬったものをぬい合せて作りました。出来上りつつある作品を見て、一人ひとりが力を合わせればこんなにすばらしいものが出来るということを強く感じました。これからも1年、2年、3年ともみんなと力を合わせてがんばってゆきたいと思っています。



写真クラブ



◀ 上都倉観音

情報化社会において最も重要な役割を果しているのはカメラではないでしょうか。古き遺産、時代の記録等に写真の必要性は高く評価され、日常生活に、教育文化、また学術研究に宇宙観測等すべての面に必要欠くことの出来ない存在でしょう。

カメラも次第に小型化し、光学技術とフィルムの発達によってプロから一般大衆に至るまで簡単に利用できるようになりました。

文化祭には1人でも多く参加することに意義があるように思われます。是非日ごろ撮った自分の作品を飾って、文化祭を盛り立てようではありませんか。

こども文庫



文化祭のテーマ「原点（古き時代からのメッセージ）」私達子供文庫は、まさに原点に立っています。

県婦連から借りて子供達に読み聞かせをした時代は、幼児文庫に千冊の本があれば……と夢見て来ました。色々な人のご協力で、今年は幼児から高校生迄さまざまな分野の本が2千冊余り揃い、ますます千代田の子供達が心豊かな人になってほしいと願っています。

今迄どんな本に人気があったのか…？ どんな本が子供は好きなのか…？ これからどんな本を揃えれば良いのか…？ どんな会に発展させれば良いのか…？ 皆様が利用しやすい子供文庫にするためには皆様のご意見が必要です。会員の人、これから文庫を利用されたい人、皆様のご意見やご要望をお聞かせ下さい。子供文庫を一層大きな輪にしたいと思えます。

今年はフォークグループ「よっしゃ」の方々のご協力により可愛い折紙でいっぱい「おとぎ館」が出来ました。いつもの様に交換も致します。お気軽にお立ち寄り下さい。楽しい本が待っています。

アマチュア無線



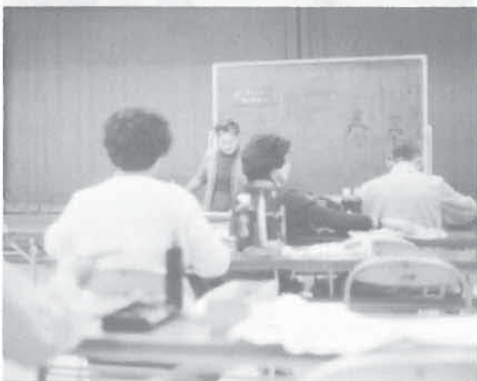
全国的にみると、ハム（アマチュア無線家）は小学生から80歳以上まで身障者もおられ、女性最高77歳、本年山口県に出現です。ふつうのバンドは3.5メガから7, 14, 21, 28, 50, 144, 430, 1200メガまで自分に適したバンドに出るのです。

交信は、やる気になれば全世界とできます。国内では多くの友だちができます。電話交信が多いが電信で交信の人もあります。また交信よりも、いろいろ装置を作っては試し、作っては失敗、成功を重ね、この方が楽しいという人もあるのです。資格をとるには、国家試験を受けるのと、認定講習会のあと修了試験を受ける方法とがあります。

千代田町中央公民館で、今年の夏第2回講習会が開かれ、暑い中を多くの人が勉強して合格されました。小学生もおります。

年末までには無線局もまたふえることでしょうか、電波障害など出さないよう、お互いにいましめ合って楽しくやりたいと、クラブ員一同いつも話しあっていることです。

愛書クラブ



筆上手な人の美しい字を見たり手紙などを頂くと、筆を持って此の様に書けるとよいなあ、と誰しも心に深く思っておられるのではないのでしょうか。しかし筆を持っていざ書いてみようと思っ白い紙に向かうと筆が重く手がふるえて書けない、何とか書けるようになりたいものと思っていました自分でしたが、この様な時に公民館の書道クラブを知り入会、早や4年を経過し月2回の学習でやっと今頃筆が軽く感じられる此の頃となりましたが、自分1人の感想ではなく共に学習して来ましたクラブ員一同の思いも同じではないかと思っています。

何事も基礎が大切です。少し上手になっても基本学習は必要です。それには自己流でなく正しい書式基本が修得出来ねばなりません。愛書クラブは、その点を十分に学習して正しく、美しくをモットーとして努力しています。自分も残り少ない熟年時代を有意義に送ろうと思ひ、学習に励んでいます。月2回2時間の学習です。誰でも入会自由です。文化祭を契機として奮起しませんか。

アーティストクラブチヨダ

戦時中の事、若者の青春は、激しい戦禍の中にあった。肉親を捜し、燃える炎の中を逃げさまよった。元気盛りの若者は、みんな兵隊に駆り出された。

青春を何にかけたか、という事について、コミュニティ活動なるものに青春をかけている今の若者と比較したならば、昔の若者は不幸だったし、今の若者は幸せというべきであろう。

アーティストクラブチヨダ、結成後十年のクイを打った。私達が10年の歴史の中で得たものは、現代の平和な社会の中で、自由に絵画学習をし、価値あるものを学び、人とふれあう豊かな精神を養った事であろうか。これからの生きがいづくり、希望づくり、あなたもACCで活動してみませんか。

クラブ旅行から倉敷にて▶



読書会

読書クラブが発足して、10年目を迎えました。読書クラブの生みの親ともいえる故佐々木正子様は病魔に勝つことが出来ず、遂に御永眠なさいました。会員一同心から感謝をいたし御冥福をお祈り致しております。

さて、読書は元来ひとりひとりのものです。自己を向上させるため、あるいは楽しみのためといっても本を読むのはその人個人です。

グループで本を読むことの長所はどこにあるのでしょうか。また本を読む楽しみはなんなのでしょう。今年の文化祭のテーマ「原点」にかえて、グループのあり方を考えてみました。

月1回の集会に共通した作品を読みあげる努力を一人ひとりがする。作品のテーマを十分考えて集まる。その上考えたことを更に掘り下げ思考する。

以上の2点を常に心にいれて読書することが必要と思います。グループでの話し合いの中に、暖かい人間関係が生まれ、心豊かな人生を送ることが出来るのだと思います。現在、会員18名です。



将棋同好会

戦後私達将棋好きの者、八重、壬生、大朝、勝田などから壬生金玉料亭にて月曜会として、将棋を指していましたが、昭和44年1月2日千代田町将棋同好会として発足。私は会員募集に3日かかって60名位にして、会長佐々木治喜氏、副会長岡本実留、三谷盛夫、理事岡本重美、杉本正一、幹事輪田辰雄。今年公民館10周年との事、現在公民館では会長石丸守人氏、副会長甲田誠三、三谷盛夫、理事岡本重実、幹事高伏康昭で、毎月第1・第3土曜日を楽しく沢山の皆さんが指しています。

過日、ある婦人の方が、「家の主人は何の趣味もなく一日中ごととばかり言っていますが、主人でも指されるようになるでしょうか」との事。とにかく一度おい出てくださいと奥さんに話しました。一人で来るのがどうかなら近所の人とおいでて下さい。お待ちしております。



囲碁クラブ



囲碁クラブは、当初囲碁教室として発足したが、早いもので6年余りの歳月が経過した。母体の千代田町囲碁同好会も充実の度合いを深め、本年は12名の昇段者があった。近時囲碁は小・中学校の児童生徒にも理解されその実力は成人を凌ぐ者も数多くなった。室内健全娯楽として頭脳の老化を防ぐスポーツとして、囲碁は今や世界的なものとなり、その技倆の差は僅少となりつつある。古今の名人達人の打ち碁を調べてみると、極めて科学的であり合理的である。一打一石を決しておろそかにせず、真剣そのもので生命をかけての闘いであった。変化は無限であり、興味尽きない鳥鷲合戦は人生生活の縮図でもある。

発足当時の囲碁クラブの原点に立って、クラブの一層の発展を願い、公民館活動としてのあり方を再考しているが、緒氏の積極的な参加を期待してやまない。

やきものクラブ



例年のごとく今年も1年間、一生懸命製作に取り組んで来ました。つたない作品ですがゆっくりご観賞下さい。

今年は老人クラブにもやきもの教室が出来、いつも棚の上は満員で活気にあふれています。初めてとは思えない創造力に満ちた作品が出来ています。子供の頃泥あそびに無心になった、土への親しみ、私たちが生まれながらに手にしている素朴な土への愛着は昔も今も変わりありません。特定人だけの芸術だと思ってきた陶芸の世界も、現在では誰でも楽しみまれる様になりました。古代の人も決して特定人では無かったでしょう。

なぜなら火も土も創造力も誰でも自分のものにする事が出来るからです。大自然が与えてくれた豊かな土を相手に、直接あなたの手で土を練り造形の世界にひたってみませんか。現代社会が忘れかけようとしている豊かな人間性を呼びもどしてくれるでしょう。

活動日 毎月第2・第4月曜日

やきものクラブ（高齢者）



やきものクラブは、高齢者の生きがい対策の一環として老人大学に設けられました。2月に発会し、会員は55歳から85歳まで17人で、平均年齢は71歳です。講師は本地丸押の岡本高始先生にお願いし、毎月第1・第3月曜日に、楽しくおしゃべりしながら勉強を重ね、今では茶わん、湯のみ、花器など、形だけはなんとか作れるようになりました。

ものをつくることは、創造の喜びを知ることです。身の回りのささやかなものでも自分自身の手でつくることはすばらしいことだと思います。これまで、家宝のような大切な花器をこわして口惜しい思いをしたことがありますが、クラブに入って、自分で作れるようになって、本当にうれしく思います。

岡本先生の親切なご指導を受けて、会員が手づくりの作品を批評し合う時が何よりの喜びです。子供のころにした土いじりの思い出をお持ちの方も多いと思いますが、そんな軽い気持ちで、あなたもクラブに参加してみませんか。

菊花同好会

菊の便りが聞かれる季節。大輪、懸崖、文人づくり……。

各地の菊花展で誇らかに、農家の庭さきでひっそりと日本の秋を象徴する菊の花。

丹精こめた菊が、馥郁たる香りを庭いっぱい漂わすとき、作った者のみが知る喜びでありましょう。

今年も、私達の作った菊の一部を陳列して、文化祭にいろどりを添えることになりました。みなさまのご観賞をお願いいたします。



表会の催し プログラム

当日祭／11月1日(日)9:00～ 開発センター

映画会／11月3日(火)

第1回上映／10:00～ 開発センター

第2回上映／14:00～

文化講演会／11月7日(土)19:00～ 中央公民館

コンサート／11月15日(日)18:00～ 開発センター

当日祭あんない

八重西婦人会民踊クラブ 代表 坂本 伊勢子

踊れば楽し 踊れば保健

和にとけて 踊って 心に灯

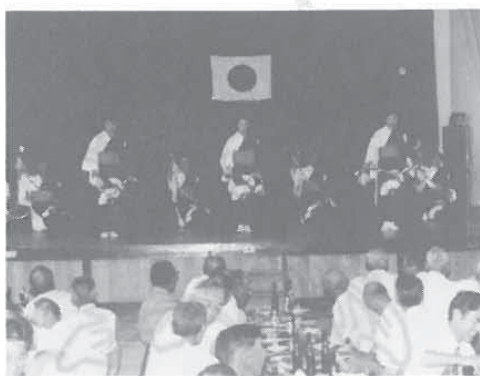
広島県民踊師範小林広勝師匠の心情です。それは即グループの信条でもあります。昨年は初めて文化祭に参加させて頂きました。「下手でも良い、間違っても良い、参加する事に意義がある。」師匠の言葉に励まされての参加でした。終って反省会での皆んなの声は、「うまく出来るか不安だった。恥かしかった。少しもあがらなかった。他のグループのを見せてもらって勉強になった。」一様にふだんのお稽古とは違った苦しみと楽しみを経験し、「参加して良かった。」と思ったものです。

今年は2度目ですが「参加する事に意義がある。」その気持ちに変わりはありません。文化祭参加が皆んなの「心の灯」となりますよう、踊りあげたいと思います。



石井谷民踊クラブ 代表 吉原 サツミ

爽やかな実りの秋、意義ある第10回文化祭。盛大な催し物、私達民踊クラブも参加させて頂くことになりました。発足以来数年になります。広島県民踊協会本地支部石井谷民踊クラブとして、下田広珠師匠を始め篠浦康洲、井上信子両先生の良きご指導と家族の理解のもと、農業のかたわら忙しい中にも月二回位夜集って練習しています。お互いに和の心を中心に優しく思いやるふれ合いの場、すばらしい石井谷会館。ある時はグループの家の結婚披露宴にお給仕や余興のお手伝い。一段と酒の座を盛り上らす敏びの声をかけて下さる事も数回。何回踊っても成果は余り思わしくなく、年を重ねる毎に練習もおそろそかに出来ず苦しみも増しますが、「9人の心がひとつになってこそ民踊の美しさが表現出来る」と師匠のお言葉。厳しく自己をみつめ素直に欠点を改め、常に前向きな誰からでも学びとれる謙虚な心と感謝の気持ちを忘れず、楽しく踊り続けたいと願う私達グループです。よろしく。



蔵迫民踊グループ

代表 藤本 祝子



私達民踊グループは、始めてから年数も浅く踊りは未熟でございます。会員は12名、少数ではございますがとても和気あいあいとしたグループです。

先生は、地元出身の村上先生、現在は広島に住まれ私達のために月に2回お稽古に帰っていただいております。私達は、先生に恵まれ幸せです。

私達は、昼間の仕事の疲れも忘れて、休む者もなく熱心に稽古いたします。稽古の後は、お茶を囲んでの楽しいひとときを過ぎ、時間のたつのも忘れることもあります。年に1回は親睦と反省会をかねて、日帰りの温泉旅行にも行っております。

とにかく私達の民踊グループは厳しい稽古も大切にしていますが、コミュニティを大切にしたい楽しい民踊グループでございます。

春木子供踊り会

代表 吉光 千寿子



春木子供踊り会のメンバー9名です。幼稚園児から小学校3年生まで、眠い目をこすりながら少しずつがんばっております。学校でリズムダンスや自由ダンスをやりながら少しテンポのちがった曲ですっきりと踊る。なかなか足や首や手がついてまわらず、子供達も苦労しております。女の子ですからきれいな着物を着れる、それだけでも楽しいものですが、やはりその中で礼で始まり礼で終る。子供達にはたいくつな面があります、親の心配はさておき、子供達が伸び伸び自分なりに楽しむ事も大切だと思います。型にはまりすぎて「あそこはこうだ」、「ここはこうだ」とやっていますと、大アクビの一つも出て来て大笑いです。昔の良さも失なわず現代的にも、そして現代っ子にわかりやすく、それでいて古典の音楽の良さをとりいれてがんばってみました。年齢も低いし、初めての大舞台でいささかたくなってはおりますが、そこは皆様のあたたかい声をかけてやって下さい。これからも、現代風をとりいれながらがんばっていききたいと思っております。

八重東民踊クラブ十日市支部

代表 中川 須美代



昨年の文化祭にも出場させて頂きました十日市支部です。

年月こそ長いのですが、月1回の教室で農繁期はてんでに休み、色々職業の違い、年齢の差もあり、なかなか上達しない。面白おかしく今日まで続けて居ります。15年間も続けてこられたのも、教

えて下さる県民踊の小林先生は立派な方で、私達は幸せに思っております。

この千代田音頭の振り付して下さい先生は、無理のない指導をなさるので美容と健康の為に続けたいと張り切っております。

現在グループの人員は20名位ですが、体の具合とか家庭の都合で3名程休んで居られます。平均年齢50歳位の者ばかりです。

南方あけぼの会

代表 梅木 光子

昭和52年12月に南方民踊クラブとして発足。花柳流名取・花柳広千沙先生（沖野靖子さん）の御指導のもとに、熱意ある皆さんのお陰で和やかな雰囲気の中に楽しく勉強し稽古する事が出来、地区の敬老会を始め老人ホームの慰問等いろいろな行事に参加しております。

昨年、地区の皆様方の暖かい御支援により後援会を結成して頂き、南方あけぼの会と改名、春秋の農繁期を除き、趣味と実益を兼ねて農作業等で固くなっている身体を精一杯動かし、美容体操、若返り法の一つとして、多忙な日々の中に少しでもうおいを願って会員一同稽古に励んでおります。

希望者はいつでも入会できます。沢山の入会をお待ちしております。



八重婦人会民踊教室

代表 河野文香

八重婦人会民踊教室は、先日亡くなられた佐々木正子さんの支部長時代に発足した教室です。発起人が亡くなられた事は、私達には大きな悲しみです。大先輩の残してくださった会を大事に長く続けたいものと思っております。皆さんと共に佐々木さんのご冥福をお祈りいたします。

さて、私達の会も年を重ねるばかりであり変りばえもありませんが、近年大変な民踊ブームで、とかく派手に流れがちになりますが、お互いに老化を防ぎ人間関係づくりに心掛け、楽しい会にしたいものだと思っております。



県民踊協会千代田町東支部

文化祭も10回目を迎え、10年の歳月の流れを改めて見つめる絶好の機会。伝えられ、営まれ、築かれてきた一步一步の足跡。一その源泉は矢張り「郷土への愛」ではなかろうか。本年のテーマ「原点」のころは、現在の私達に対する、未来を創造する郷土への愛の呼びかけではあるまいか。一それは先ず、千代田に住んでいる者のコミュニティから始ると私達は考えて先ず参加する事に意義と喜びを見出しています。下川東老人集会所を中核に川西、上川東会館を持回り会場として各地区から月2回集まって民踊練習しております。文化祭発表を頂点として、又、新しく練習を始めます。

老若男女、上手、初心者問わず多くの参加を望んでいます。それは、私達は民踊を一つの手段としてコミュニティの輪を広げる事を第一に考えているからです。



壬寿々会

代表 川本千代子

昨年よりメンバーは少しかわりましたが、会員15名、年齢は63歳を頭に下は32歳の年齢差が違う程、習いはやはりシワの数が多い程鈍く、若い方に負けてはと一生懸命頑張っているせいか発足して早3年目、顔のシワも3つ少なくなりました。舞台上立った時の姿、18歳番茶も出花、うら若き乙女、第1・第3水曜日午前10時より正午まで壬生支所2階にて稽古しております。

農繁期中でも欠席者なく、皆さんのたのしそうに出席していただいております。笑い声の絶えないメンバーです。これも広島より私達の為にお越し下さる花柳美寿弘先生(坂本恵子)の人柄だと思えます。

皆さん、こんなグループですが仲間に入って見ませんか？



春木民踊クラブ

代表 横田八重子

光陰矢の如しと申しますが、あれからもう1年、毎日の忙しさに追われている私達にとってほんとに早い1年でした。でも其の忙しさの中に月2回の練習日がたのしみに待たれ、何も彼も忘れて…いいえ思っているはどうしても身が入らないからです。汗を流して一生懸命唯夢中に習って参りました。色々な行事に出演させて頂き、其の都度の反省会、和気あいあいに会食をしながら失敗した事、又、我ながらうまく行ったとかお互いに自慢の料理を持寄り、時には料理教室にまで発展して行く時もあります。一つ心になり切ったすばらしい姿だと思えます。此の上もないコミュニティ活動とクラブ一同ひそかに自慢に思っています。

今後益々頑張っていく積りでございます。



川戸民踊クラブ

代表 高橋 祥子



老いも若きも年齢には制限なし。楽器があって、唄があって、踊りがあって一つの輪になり活動を続けています。私達民踊グループは、健康と美容体操にびったりと皆頑張っております。上手下手はぬきで、楽しみに待つ練習日には時間の過ぎるのも忘れ、身も心も熱中します。

人間が物事に熱中している姿はとても美しいと感じるものです。川戸地区文化祭・敬老の日と、未熟ながらもいろんな行事に参加させていただく事を喜び、又、励みにしております。これからも皆で励みながら頑張りたいと思います。

県民踊本地支部

代表 中村 ミヨ子



細く長く、言葉は優しいけれど努力のいることだと思います。今年もわずかずつではあるけど積み重ねて参ったつもりです。お互いが踊る喜びを分かち合える会であることを誇りとし、あたえられた機会を大切に今までの努力を实らせる、素晴らしいことだと思います。現在会員27名、それぞれ思わぬハプニングが起ります。揃って参加出来ないのを残念に思います。積み重ねたものを明日へ、気持は皆んな同じであると思います。

良き指導者に恵まれて、踊りの楽しさに喜びを見出すこの頃です。

喜楽会

代表 西岡 加寿江



老楽の友が、三又温泉の出湯にひたり、お土産として銭太鼓を買って帰りました。お手玉がわりに銭太鼓をふって若さを保ちたいという願いから始めたことで、名前を「喜楽会」といいます。74歳を頭に6人の勇気あるばあちゃん達が集まり、加えて、ちいたあ若いかあちゃんも仲間に入れてもらい、おもしろおかしく、楽しい集いを月1~2回位もっています。

ある時は、つけ物のおいしい漬け方について話を聞いたり、若い頃の想い出話を交わしたり、老いも若きも無礼講で共に仲よくやっています。

今日、こうして皆さんの前で披露をするまでには至っておりませんが、元気のあるばあちゃんたちの振るまいを見ていただければ幸いです。

クラシックギター独奏

現在33歳。本地千坊に住んでいます。

学生時代よりクラシック音楽が好きになり、クラシックギターを勉強しています。今回初めて参加させていただく事にしました。

よろしくお願ひ致します。



尺八・琴

日本の伝統音楽である尺八・琴を、自分の生活の営みの中で自分なりに心の憩いの糧としている私達に今年から新しい仲間が加わっての文化祭参加となりました。

蔵迫の中野社中（琴）の方と合奏いたします。

曲は花かげ変奏曲（野村正峰作曲）・花と少女（野村正峰作曲）の2曲と、尺八だけの合奏曲八千代（淀祖中尾都山作曲）です。

尺八 森脇・越・上西・新出・垣内・細内・谷口

琴 中野・佐々木・佐渡・森分・上中・峠・高野・伊藤・寺田・道上・河内



弓道

弓道修練の基本は「身心弓」の三者が「渾然一体」となることにある。弓道は「正射必中」を指針としている。そうして弓道を通じて「人間形成」の「修養道」でもある弓道の道には「法があり、術があり、理がある」そうして、弓道を学ぼうとする時、弓射には「心気の必需性」を忘れてはならない。そうして弓道の目的や特質を認識し、まず己の心を正しくする。現在千代田体協弓道部員20余名にて、毎週土曜日PM7時半より体育館に於いて弓道教室を開き、老若一体となり真善美の温かい人間関係を結び乍らも修練を積んでおります。幸いにして教師として川戸出身教士七段出田要先生、五段大月安夫先生。両先生のご指導の元に弓道の忘れられない愛着を感じている現在です。二進一退し乍らも遠くは本年5月1日、大阪住吉神社全国大会にて7位、中国選手権大会には惜しくも破れたりとも、尚止む事を知らず。武士道の真髄に在る弓道の「修練の指標」として会員全員が精進。心技体の精神統一にて◎的の中した。あのスリルを我が胸に秘め、お互いの職務に努力出来る姿こそ尊けれ。心を磨き体を鍛え、真善美の中に解け合って、老若男女の皆さん、入会は千代田体協弓道部へ。



詩吟

代表 桑本 ユキミ

昭和50年初めて老人大学に入学致しました。大学のクラブ活動として、詩吟クラブが発足され、当時生徒は20名位でしたが、現在30名余りとなりました。大学開講の午後広島赤井溶山先生や、地元の桐原先生、森脇先生の指導も受けて、全員が思誠流赤心会に入会し、すでに中伝や皆伝に達した人もおります。その成果は老人大学の発表会や、又、町の文化祭に発表しています。大学開講日だけでは時間が少ないので、折々は、いこいの家に集合して練習しています。又、時々流行歌も教えていただき、次の会が待たしい、楽しい詩吟の会です。詩吟クラブに入会してからはお友達も沢山出来て話題も多く、どこで出会っても互いに笑顔で挨拶を交し世間が広く、老いゆくさみささも忘れて明るい楽しい日々が送られます。



銭太鼓

誕生して2年目の歩みです。ブームに乗って、あちこちの婦人会でも大童なこの頃。

その数ある中から再度出演させて頂くことが出来て、会員一同大変嬉しく光栄に存じております。23名の会員で毎月第3火曜日の夜、2時間の楽しいひとときを親和荘にて過しています。

おぼつかない足どりでしたが、やっと習得させて頂くことが出来たので1時間を銭太鼓のお稽古に、あとの1時間は会員の方で着物教室で学ばれた半幅帯の実技指導を――。民踊クラブの方による手踊り――。或る時は教得寺様を招いてお話を――。鎌定先生より基本的な礼儀作法の学習等少しづつ幅を広めるようになりました。

今後この和を大切に持続し、発展して行きたいものと念じております。



居合道

代表 發 春 三



居合とは、大刀を抜く事を居合と心得たる人が多い。嗜まざるは至極である。抜かぬ前の平常、人と相対するを居合と言うのである。己を立てて人に逆う時は、敵となりて居合も崩れ、抜き放ちて喧嘩となるであろう。常に人を立てて己を立てず、柔和を第一とし、居合の実意を守り、礼儀を正し、人におくれて、身を直くすれば、居合整い、天理に叶い、いよいよ天下和順にしてその徳自ら備わるのである。又片時も油断なく、出入起居を慎み、遊山翫◎と雖も、心を静め用心し、日夜朝暮心の油断なく、心の敵を作らず、己を責めて己に勝ち、過ちを改め勤むることこそ居合の大事とするものである。

居合とは心にかつが居合なり
人にさかふはひがたなと知れ

コーラスせせらぎグループ



山あいの小さな谷間を流れるせせらぎ、絶えることのない流れのようにその名もせせらぎグループ。少数ながら地道な活動をつづけています。やがて大きな力となるように、岡谷先生のご指導で美しい合唱曲へと一歩一歩近づいていく努力はまことに地味な勉強ですが、みんなで心を合わせて歌うことにより、そこに協調性と楽しさと心のふれあい生まれて一石三鳥。

歌う方法は自分の好みで上下に分かれますが、微妙なハーモニーを聞きながら合わせてゆくメロディーとリズム、ティータイムをはさんでの練習時間もまたたくまに過ぎてしまいます。

いろいろな曲や、よい歌詞に出会うことによって、人生の機微にふれることもできます。

あなたもいっしょに、なつかしい四季のうた、子どもの歌、ふるさとの歌、外国の歌など歌ってみられませんか……グループでお会いできる日をお待ちしています。

代表 中 本 藤 子



人間生活の一番大切な豊かな心を教えるものとして、茶道が重視されていることは、皆様もご存じだと思います。

習得し始めて5年になります。稽古と言う実践を通して、知恵を十分学び収めていくことに努力しています。又、茶道の目ざすところの人間尊重の心を味わおうとしています。その甲斐あってか、生活面においてどんな場面に直面しても、あまり戸惑わなくなったような気がして来ました。

これから、まだまだ実際にくり返して稽古をつんで、心から心に伝えていく、茶道の本当の姿をつかむために、さらに先生について勉強してゆきたいと思っています。

皆さまにすこしでもうおいのひとときをと、心をこめてお茶を立てさせて頂きます。ぜひお立寄りくださいませ。



プログラム

9:00	1	開	会	式	
(時間)	2	民踊	乾盃音頭		八重, 八重西, 八重東合同民踊クラブ
	3	"	日本太鼓		石井谷民踊クラブ
	4	"	北海男船		蔵迫民踊クラブ
	5	日本舞踊	子守		春木子供踊り会
	6	民踊	音戸の船唄		八重東婦人会民踊クラブ
	7	"	法輪音頭		南方あけぼの会
	8	"	日光和楽		八重婦人会民踊教室
	9	"	御祝(ごいわい)		県民踊協会千代田町東支部
	10	"	八木節		壬寿々会
	11	"	関の五本松		春木民踊クラブ
	12	"	傘踊		川戸民踊クラブ
10:20	13	"	三原ヤッサ音頭		県民踊協会本地支部
	14	銭太鼓			喜楽会
	15	クラシックギター	愛のロマンス		浅木 宏
10:50	16	尺八と琴	花かげ変奏曲	他	都山流尺八同好会・中野社中
	17	民踊	秋田大黒舞		八重西婦人会民踊クラブ
	18	"	安来節		石井谷民踊クラブ
	19	"	博田カッチリ		蔵迫民踊クラブ
	20	日本舞踊	孝女白菊		春木子供踊り会
	21	民踊	千代田音頭		八重東婦人会民踊クラブ
	22	"	関の五本松		南方あけぼの会
	23	"	青春関東節		県民踊協会千代田町東支部
	24	"	白虎隊		壬寿々会
	25	"	秋田節		春木民踊クラブ
11:40	26	"	乾盃音頭		県民踊協会本地支部
	27	弓道	三人立廻りの礼謝		弓道部
	28	詩吟	岸壁の母		老人大学詩吟クラブ
	29	銭太鼓			壬生親和会
12:30	30	居合道			居合道部
	31	民踊	高山音頭		県民踊協会本地支部
	32	"	松前ソーラン		八重西婦人会民踊クラブ
	33	日本舞踊	さくら道成寺		春木子供踊り会
	34	民踊	相馬盆唄		南方あけぼの会
	35	"	同期の桜		八重婦人会民踊教室
	36	"	ハワイ音頭		県民踊協会千代田町東支部
	37	"	広島木遣		壬寿々会
	38	"	日本竹		春木民踊クラブ
13:30	39	コーラス	ローレライ	他	せせらぎグループ
	40	入場者プレゼントコーナー			文化祭実行委員会
	41	劇	武		千代田町青年連合会
	42	文化祭テーマ曲発表会			文化祭実行委員会
15:40	43	閉	会	式	



国際障害者年にむけて贈る
愛と人間讃歌のドキュメント

この映画は、たんに心身障害児の記録にとどまらず、人間のあらゆる問題の根源にふれて語られた現代の聖書としての意味をもつ。

灰谷健次郎(作家)

「ぼくたちは生きる」
明るく力強く

■監督 中山節夫
■企画 社会福祉法人志友会・芦北学園
■協力 千代田町、社会福祉協議会、青少年育成千代田町
民会議



文部省選定

OHPによる字幕つき
(カラー作品)
いまできること
芦北学園の子供たち

○チャリティ映画会においての一部収益は、町内に在住される障害者及びねたきりの方達に還元をさせていただきます。

文化講演会

11月7日(土) 午後7時より 中央公民館

テーマ「鬚光とののであい」

講師 県立美術館副館長

佐藤良男氏

「神経質な近代病にとりつかれないようがっかりとして、
全裸の自然に真正面からぶつかって行きたい気がする」……
〔鬚光〕

石村鬚光が戦後の美術界に大きくクローズアップされたのは、やはり彼の死後のことで、彼の生涯はまことに作品することだけがその生命の総てであった。だからその呼吸は、そのまま時代の呼吸であり、作品の変転はそのまま日本美術界の変転史でもあった。(菊地芳一郎著、鬚光より)

鬚光の生涯は短く、いわば遍歴時代で、世を去ったともいえよう。そういう画家は、なにも鬚光にかぎったことではないが、鬚光の場合は、その遍歴の隅々まで近代日本の私小説的なもの、矮少な情緒主義的技法の劣弱なアカデミズムと対決し、蹴り散らかしてみせた。鬚光ほど早期から頑丈で構築性のある作品を描けた作家はそうざらにはいない。超現実主義風作品をひとつ例にとっても、そこでは感傷的文学青年的幻想とはまったくかけ離れた画値をつくり出していた。

私が鬚光を近代百年の日本画史のなかに位置づけようとするものは、このような稀少の実作者であったということである……」。

(日本の名画・鬚光、宮川寅雄著より)

これまでに出版された著書の鬚光に関する一文である。ここにもある通り戦後大きくクローズアップされたこの画家が千代田出身であるということは、地元千代田でもあまり知られていない。



ほっとすたっぷ

音楽の好きな4人グループ「ほっとすたっぷ」です。今のメンバーに落付いて、まだ4か月余りですが、演奏は、ともかくにして、それぞれの楽器を前にかっこうだけはなんとか様になって来たようです。メンバー、それぞれなかなか忙しい毎日なので、わずか月3回位いの練習も全員がきっちり揃うことが少ないので1曲合わせるのに大変に苦労をします。それでも、いざ楽器を持つと、恥ずかしがりやの4人も千代田のすうばあすたあになった積りで大きな雑音の中で、それなりに楽しくやっております。



土田悦治

千代田には、これで4回目の来千であります。いつも自分の故里へ帰って来たような気持ちになります。何度来ても暖かく迎えて下さるからです。友達もたくさんできました。

僕は相変わらず広島で頑張っています。もし日ようびに広島へ来ることがあったら、並木通り野外音楽会 (PM 2:00~4:00) へどうぞ。道ばたで歌っています。それじゃ今夜。



掛江清一 With 浮来奴

皆さん今晚は、昨年の文化祭に引き続き今回が2回目の出演になりました。人生100年とするならば、私はすでに1/4を過ごしました。今から残り3/4を如何に生きるかを考えるより、皆さんの手拍子や掛け声の中で、今夜歌えることを大切にしたいのです。それじゃーそろそろ歌います。

追伸...来年の豊作を祈願します。



酒 洛

みなさん、本日はお招きいただきまして、ありがとうございます。昨年にひきつづきまして、華々しいステージをお見せします。

さまざまな事件でゆれ動く今日、私たちの回りでも、暗い話題が多いわけですが、その中でも音楽状況は変わりつつあります。古典的なメロディ・ハーモニーリズムからの脱却をめざし、また、あり余るエネルギーを発散させて反応の正確さを求めた、私たちの楽しいステージをお楽しみ下さい。



キャメル・キャラメル

はじめまして“キャメル・キャラメル”です。男4人、女3人の仲よしこよしバンド。いつも、聴きやすいシンプルなサウンドをめざし、がんばっています。

おととしの9月、はじめて人前で演奏し、以来、POPCONや自主コンサートなど、数多くの場所で多くのことを学びました。おかげさまでもう2年、今日はメンバー全員はりきっています。



Dun (デユン)

皆さん今晚は“DUN”です。以前は“ウメ&ジュリエット”という名で活動してましたが、この夏から心機一転、バンド名も新たに市内のライブハウスetcで頑張ってます。今夜初めて、私の生まれ育ったこの町で歌えることを幸せに思います。



青年会の紹介

壬生青年会

わたしたち壬生青年会は、ここ数年「仲間づくり」を合いことばに活動をしてきました。それは心開いて話合える友人づくりからはじまり、今ではみんな力をあわせて一つのことをやり上げようとする団結の力となっています。しかし、つまづくことも多々あり、みんなして頭をかかえこむこともあります。でも、それだけで終わらず、また歩きはじめるのが、私たちの青年会なのです。

“原点、とってもいいことばだと思いますか？ 日目の忙しさにおわれ、めまぐるしく変化する現代社会の中で、とすれば惰性によって日々をおくってしまいそうな今日、いつも心の中に秘めていなければいけない大切な意味を含んでいることばではないでしょうか？ それは一人の人間であろうと、活動をつづける団体であろうと、社会であろうと。

川迫青年会

私達川迫青年会は、今年、月1回の会合を持つと計画し、「楽しい青年会活動を」モットーに、夏はキャンプ、海水浴、野球観戦、ソフトボール、バレーボール等々活動してきました。

しかし、遊んでばかりいる訳ではありません。ふるさと千代田についても、色々と考え、真剣に話合っています。そして文化祭10周年を迎える今年、私達は千代田の未来の模型造りに頑張っています。皆で協力し、蔵迫公民館に集まり、段ボール箱を相手にハサミとナイフで大ふんとうしています。最初はやる気満々ではじめたのですが、作業にとりかかるとすぐ、難問にぶちあたり悩み続けましたが、皆の考えを参考にして、色々を試みてみました。皆が協力し合い、とりくむということは何事においても大切な事と思います。

残すところ2週間、皆1年で一番いそがしい季節ですが、時間を調整して、今日も公民館へ集合してくれ

八重青年会

現代を生きる若者にとって、今考えなければならない事は、未来への希望、期待、そのためには、過去を知り、今の自分と言う物を、もう一度みつめなおさなければいけないと思います。“自分の道は、自分で作れ、いろいろな障害にぶつかり、のりこえ、人ととのふれあいによって、自分と言う物を大きく成長させ、一步一步あゆみ、確実に自分の道を切り開き作っていかねければ、明日の自分が見えないまま生きて行く事になると思う。

私達八重青年会は、20名という人数でいろいろな行事、問題に取りくんでいます。今まで先輩のみなさんが築き上げてこられた経験、実績などを聞き、またそれらを参考にして、これからの青年会を作り、成り立てて行きたいと思っています。



ます。

そんな皆の気持は、「私達の千代田町を、住みよくなりすばらしい町にしよう」ただそれだけです。



南方青年会

文化祭も今回で10周年を迎えて、大変よろこばしいことであるとともにこの記念すべき年にあたり、心を新たに、これからの千代田の文化をもう一度一から考え直す意味で、今回のテーマのごとく「原点」に帰り青年ひとりひとりが責任と自覚をもち、行動して行かなければなりません。南方青年会もこれまでに数々の活動をしてきましたが、全員が参加できる活動と言えはやはり文化祭であると思います。昨年文化祭も毎晩遅くまで準備したことが、今でも頭に浮んで来ます。だれ一人としてグチもこぼさず熱心に準備しました。

やはり千代田の文化祭という大きな行事について、ひとりひとりの思いは一つであると強く感じました。今回もその心意気で全員、今まで以上に盛り上げて我々が歩んで来た文化というものを、10周年のこの時を一応の再スタートにして、これからの文化祭の活力源になるようにみんなで努力、協力して行かなければなり

八重東青年会

八重東青年会は、現在会員15名程度で、ここ数年会員は少しずつ減少している。活動は、主に千代田町青年連合会主催のスポーツ大会や文化祭を中心として、夏にはキャンプや、盆踊りを行っているが、参加者が年々少なくなっている。通常青年会活動を行っていないことが、ますます活動状況を低下させている。

今年の文化祭のテーマは「原点」である。わが青年会も先輩達がつくりあげた当時のことを学び、どのように発展してきたかを考え、それを今の青年会に生かす時かもしれない。今後はやはり地域に密着した活動をしなればいけないと思うし、青年にしかできない事があると思う。青年会は他の団体と比べて新陳代謝も早い、新しい血を常に吸収しながら先輩たちの残した足跡をみつめ、青年にしかできない活動ができればいいのだが。

本地青年会

今回の文化祭で10周年を迎え、われわれは今「原点」に立たされているのではないだろうか。

青年会とは何か、どういう活動をしなればならないか、又、その活動を通じて何を学び生かしてゆくか。これまでの積み重ね、又これから先の活動の意義といった事柄について、今一度考えてみる必要があると思う。

これからの千代田町を背負ってゆくのは青年であり、我々に課せられた義務でもある。それは10年前も今も全く変わっていない。そして今、新たに10年先を大きく展望し飛躍する第一歩を踏み出す時期にきていると思う。

本地青年会も一致団結し、さらに活発な活動に努めてゆきたい。

ません。

まず、昔からの伝統を我々がよく理解し、受けついで今まで以上の文化、そして文化祭を作り上げて行きましょう。



あ　と　が　き

広島県農業祭・米まつりを経て今年「千代田まつり」と称して町民こぞって手づくりのまつりを、を合言葉に開催したこの事業は、関係者みな初めての試みで、いろいろ不備な所もありましたが、各方面からのご協力により、新しい千代田の大きな行事が出来あがりました。来年そして……と、より意義のある千代田まつりとなるよう皆様と共にすすめて行きたいものです。

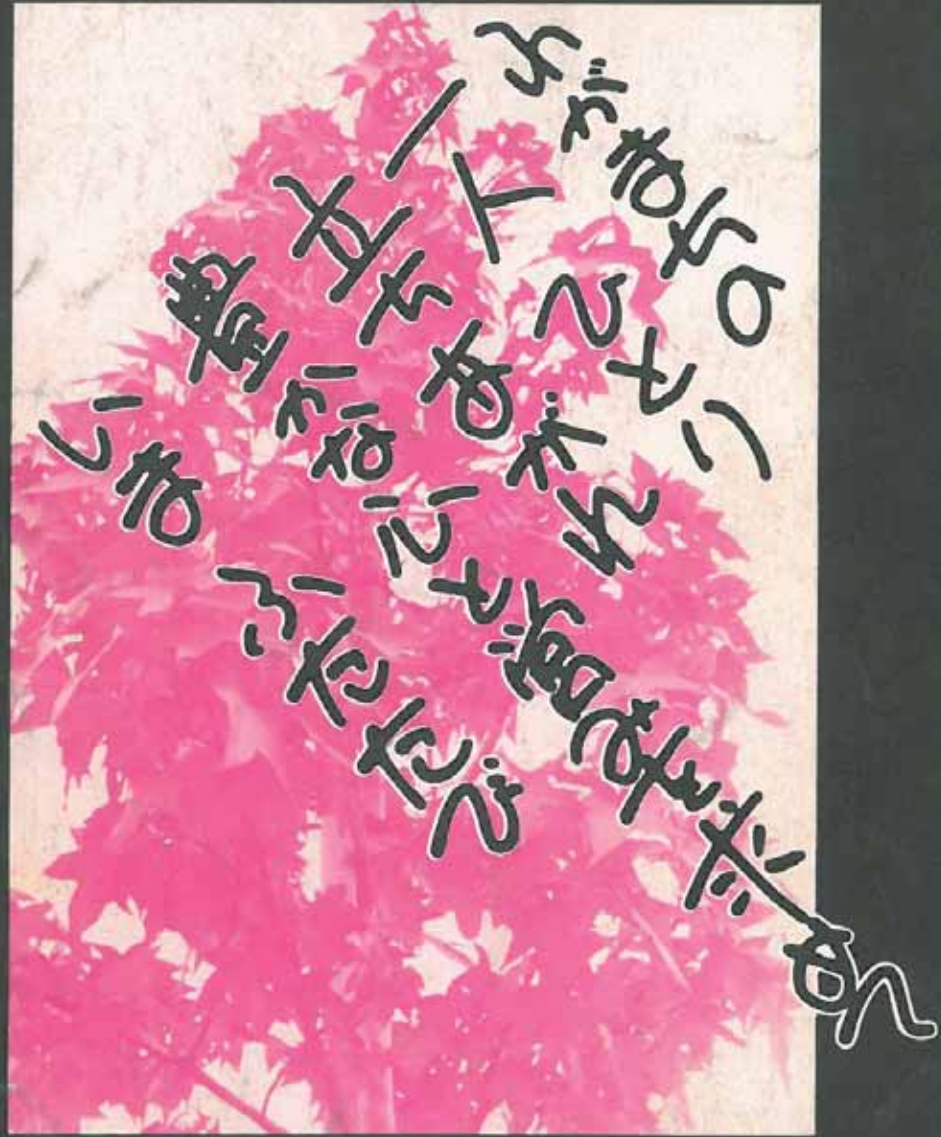
千代田まつり実行委員会

一年一年その時代を精いっぱい演出した文化祭が10年の足跡を残しました。

10年の意味を文化祭の準備をすすめる中で知り、知らされた時、10年目に私達がいることに感激しました。

この文化祭に良くも悪くも10年の評価がされる「原点」、ここに何かをつかみ、まずは来年に向かいたい。千代田のすばらしい文化をかみしめながら。

文化祭実行委員会



1981